

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	32101301	
事務事業名	新川文化ホール管理事業	
予算書の事務事業名	1.新川文化ホール管理費	
事業期間	開始年度	平成6年度
	終了年度	当年度
	当面継続	業務分類
		1. 施設管理
実施方法	<input checked="" type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	08030200
部名等	教育委員会事務局	
課名等	生涯学習・スポーツ課	
係名等	文化係	
記入者氏名	川上 美子	
電話番号	0765-23-1045	

政策体系上の位置付け	コード2	321013
政策の柱	第3章 人・文化を育むまち	
政策名	第2節 地域に根ざした文化とスポーツの振興	
施策名	1. 文化の振興	
区分	文化	
基本事業名	文化施設の整備、活用の促進	

予算科目	コード3	001100507
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	5. 社会教育費	
目	7. 新川文化ホール費	

◆事業目的・概要 (どのような事業か)				実績		計画			
富山県文化振興財団を指定管理者とし、施設利用者が快適かつ安全に使用できる施設運営を行う。また、指定管理者に多彩な事業の実施を促し鑑賞と参加の機会を広く市民に提供する。				単位	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) 新川文化ホールの利用者、市民、各種団体等	対象指標	① 市民	数	46,036	45,562	45,562	45,562	45,562
	② 文化教室		数	30	31	31	31	31	
	③								
手段	<平成21年度の主な活動内容> 新川文化ホールの市所有部分・共有部分の施設維持管理と料金徴収業務等や事業運営(文化祭・市美展など)を文化振興財団へ指定管理委託。「魚津市所蔵 榎方志功展」「戦国武将上杉家と魚津」を常設展示室で開催した。 *平成22年度の変更点 変更なし	活動指標	① 利用件数	件	1,323	1,489	1,490	1,490	1,490
	② 利用料金		円	13,995,420	14,266,587	14,266,600	14,266,600	14,266,600	
	③ 文化事業入場者数		人	37,039	41,989	42,000	42,000	42,000	
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 施設利用者(市民・文化団体・アーティスト等)が快適かつ安全に利用できる施設を実現・維持する。 施設を利用することにより文化活動が充実する。	成果指標	① 展示ホール利用率	%	73.00	75.00	75.00	75.00	75.00
	② 和室・会議室利用率		%	26.00	26.00	30.00	30.00	30.00	
	③ 文化祭、市美展の施設利用者数(入場者数)		人	7,598	6,321	7,500	7,500	7,500	
その結果	<施策の目指すすがた> さまざまな芸術文化にふれる機会が多く、市民が活気と潤いに満ちています。	↑成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入 利用者アンケートなど							
◆この事務事業開始のきっかけ(何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 平成6年県東部地区唯一の県民会館、富山県新川文化ホールが設置され、魚津市の施設も併設したことによる。				財源内訳	(千円)	0	0	0	0
				(1)国・県支出金	(千円)	0	0	0	0
				(2)地方債	(千円)	0	0	0	0
				(3)その他(使用料・手数料等)	(千円)	0	0	0	0
				(4)一般財源	(千円)	85,069	81,571	81,100	81,100
				A. 予算(決算)額((1)~(4)の合計)	(千円)	85,069	81,571	81,100	81,100
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化(法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 平成18年度から指定管理者制度に移行し、企画事業に市民文化祭、市美術展覧会事業が追加された。指定期間が21年4月から26年3月までの5か年になった。				①事務事業に携わる正規職員数	(人)	1	3	1	1
				②事務事業の年間所要時間	(時間)	598	510	400	400
				B. 人件費(②×人件費単価/1,000)	(千円)	2,515	2,145	1,682	1,682
				事務事業に係る総費用(A+B)	(千円)	87,584	83,716	82,782	82,782
				(参考)人件費単価	(円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見(担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質などを記入) なし				◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)				
				<input checked="" type="radio"/> 把握している	高岡市が、美術館・博物館・市民会館等を高岡市民文化振興事業団へ管理委託。富山県文化振興財団は富山県民会館、富山県教育文化会館、高岡文化ホール、富山県民小劇場を管理している。				
				<input type="radio"/> 把握していない					

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 適正な施設管理と多彩な事業により、市民が身近に芸術文化に触れる機会が増える。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input checked="" type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 補助事業を利用し、市民のニーズを把握しながら事業を開催することにより満足度を高める。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 適正な施設管理と多彩な事業開催には節減の余地はないものとする。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 鑑賞機会の創出、文化芸術の普及啓発・育成のためには指定管理者が行う事業を支援する必要があるため、人件費削減の余地は少ない。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者あり・負担あり 適正化の余地なし	説明 他の類似施設とほぼ同等の使用料を設定している。
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 平均 <input type="radio"/> 低い	説明 県内類似施設とは、ほぼ同等の利用料金となっている。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input checked="" type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input checked="" type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

(1) 評価結果の総括					
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり				
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり				
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり				
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり				
(2) 今後の事務事業の方向性					
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施 <table border="1" style="float: right;"> <tr> <td>年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>		年度			
年度					
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止					
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善					

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成23年度)	コストの方向性 維持
	中・長期的 (3～5年間)	成果の方向性 向上

★課長総括評価 (一次評価)

市民が多様な芸術文化に触れるための施設であることを、指定管理者と確認し、事業計画を協議する。	二次評価の要否
	不要

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	32101302	
事務事業名	歴史民俗博物館管理事業 (博物館収蔵品整理作業含む。)	
予算書の事務事業名	1. 歴史民俗博物館管理費	
事業期間	開始年度 昭和48年	終了年度 当面継続
業務分類	5. ソフト事業	
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	08030200
部名等	教育委員会事務局	
課名等	生涯学習・スポーツ課	
係名等	文化係	
記入者氏名	塩田 明弘	
電話番号	0765-23-1045	

政策体系上の位置付け	コード2	321013
政策の柱	第3章 人・文化を育むまち	
政策名	第2節 地域に根ざした文化とスポーツの振興	
施策名	1. 文化の振興	
区分	文化	
基本事業名	文化施設の整備、活用の促進	

予算科目	コード3	001100509
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	5. 社会教育費	
目	9. 文化費	

	◆事業目的・概要 (どのような事業か) 博物館の維持管理や展示・普及活動。また館収蔵品の整理台帳を作成、収蔵品の適切な管理及び活用を行う。	単位	実績		計画				
			20年度	21年度	22年度	23年度	24年度		
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) 博物館施設及び館収蔵品、市民	対象指標	① 博物館収蔵品	件	3,050	3,291	3,400	3,500	3,600
			② 博物館管理対象施設	棟	3	3	3	3	3
			③ 見学者・普及活動参加者	人	4,027	13,301	4,000	4,000	4,000
手段	<平成21年度の主な活動内容> 市直営のため、維持管理とそれに付随する事務作業。館内展示品修繕等、考古学教室開催による普及活動、館収蔵品について個々の整理番号や名称を台帳やラベルに記入しデータの作成を行う。 *平成22年度の変更点 なし	活動指標	① 確認した収蔵品	件	3,050	3,291	3,400	3,500	3,600
			② 保守・修繕を行った箇所	件	11	6	5	5	5
			③						
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 博物館施設の継続的運営。館で所蔵する資料は、従来までは館内にどのようなものがどこにあるのかははっきりしていなかったが、収蔵品の状態や収蔵先、数量などが把握できるようになった。	成果指標	① 不明	不明	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			②						
			③						
その結果	<施策の目指すすがた> 郷土の歴史、伝統、自然に育まれた特徴的な文化が普及しています。	↑成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入 入館者に対するアンケートの実施							
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 昭和48年の開館から。また開館当初は収蔵品の整理作業などが行われていたようであるが、年月が経過し、寄贈品が蓄積していったが収蔵データの不備が目立つことから、全収蔵品に対する再整理作業を行うこととした。			財源内訳	(1)国・県支出金 (千円)	0	0	0	0	0
				(2)地方債 (千円)	0	0	0	0	0
				(3)その他 (使用料・手数料等) (千円)	0	0	22	22	22
				(4)一般財源 (千円)	7,607	7,652	9,088	9,088	9,088
				A. 予算(決算)額((1)~(4)の合計) (千円)	7,607	7,652	9,110	9,110	9,110
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 部分的な民間委託。指定管理者制度は時期尚早として、平成18年度より直営に見直す。また平成13年度から入館料無料化。				①事務事業に携わる正規職員数 (人)	2	3	3	3	3
				②事務事業の年間所要時間 (時間)	642	920	800	800	800
				B. 人件費 (②×人件費単価/1,000) (千円)	2,700	3,869	3,364	3,364	3,364
				事務事業に係る総費用 (A+B) (千円)	10,307	11,521	12,474	12,474	12,474
				(参考) 人件費単価 (円@時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質などを記入) 市民から歴史民俗博物館の場所が、市街地から遠く、公共交通の便もなく不便。			◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄) 博物館年報、紀要の発行。普及活動の実施。博物館所蔵品目録などの刊行物による					
			● 把握している						
			○ 把握していない						

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度（事務事業の施策の目指すがたに対する直結度（対象・意図の密接度）とその理由説明）	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 この結果博物館の管理運営が適切に行われた。
2. 市の関与の妥当性（民間や他の機関でも実施可能な事務事業か）	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input checked="" type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間（市民・企業等）によるサービスの実施が不可能（又は困難）なため、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小（廃止）が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地（現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明）	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地はない。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地（成果の向上が今後どの程度見込めるか説明）	
なし	説明 館の維持管理は最低限の人員と予算で行っており、向上の余地はない。普及活動は内容により参加者増が見込める。収蔵品整理は館にどのような資料があるのかを公開し、情報の共有化を図ることできる。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無（どう効果が高まるか説明）	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地（手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明）	
なし	説明 館の維持管理は最低限の人員と予算で行っており、向上の余地はない。
7. 人件費の削減の余地（今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明）	
なし	説明 最低限の人材の中で業務を行い、別事業費からも人件費を補填している状況である。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地（過去の見直しや社会経済状況等から）	
特定受益者あり・負担あり  適正化の余地なし	説明 博物館教室では材料費を受講者が負担している。現在入館料は無料であるが、企画展開催の際に特別料金などを検討していく。
9. 本市の受益者負担の水準（県内他市と比較し、今後のあり方について説明）	
<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 平均 <input type="radio"/> 低い	説明 県内の歴史系の博物館は有料、無料はほぼ半々。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ（この事務事業にどれくらいのニーズがあるか）	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input checked="" type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input checked="" type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
2) 今後の事務事業の方向性	
<input checked="" type="radio"/> 現状のまま（又は計画どおり）継続実施	年度
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案（いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか）		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度（平成23年度）	必要箇所の修繕、普及活動の実施、登録物件の整理作業の継続とデータ点検作業の実施。「魚津の水循環」の普及啓発活動を新たに実施。
	中・長期的（3～5年間）	常設展の展示替え、施設老朽化や耐震などを考慮したりリニューアル。登録別件のデータ公開や図録刊行、過去の所蔵台帳との照合作業が必要。
		コストの方向性 増加
		成果の方向性 維持

★課長総括評価（一次評価）

今、収蔵品をデータ化しているだけだが、使用目的の分からなくなっている収蔵品もあるので、古老の協力を求め明らかにする必要がある。また、整理の終わっている未展示の収蔵品も多くあるので、年次計画を持って企画展で紹介する。平成20年度から実施している収蔵品を利用した出前講座は、社会科の教員退職者が臨時職員であることから可能になっている。今後出前講座は推進する。	二次評価の要否  不要
---	-------------------